

日 時	平成**年**月**日（*） 9:40～10:25	場所	体育館
指 導 者	○○○○(T1) ○○○○(T2) ○○○○(T3) ○○○○(T4) ○○○○(T5) ○○○○(T6)		
題材名	「けってみよう」		
題材設定 の理由	<p>本学年は男子*名と女子*名の計12名で構成されている。ボール運動では、「投げる」題材をとおして全身を使って投げることができるようになった児童が多く、自主的にボールにかかわることが増え、興味・関心をもって取り組むことができた。しかし投げることに集中すると、右手と右足、左手と左足をそれぞれ同時に出してしまい、自分の体の動きをコントロールすることがまだ難しい児童もおり、ボディイメージを広げる段階である。日常的に歩いたり走ったりすること以外で足を使う経験がほとんどなく、「蹴る」という言葉と動作が一致しない児童もおり、基本的な動作を身につけて欲しいと考えた。また、2学期も終わりが近づき、児童自ら教室を行き来し遊びに行くことが増え、クラスを超えた教師や児童同士のかかわりが多くなっている。そこでさらに学年としてのかかわりを深めていきたいと考え、チームスポーツのサッカーを設定した。</p> <p>本題材では、特別支援学校小学部学習指導要領の体育科の内容、1段階（1）（2）（3）、2段階（1）（2）（3）、自立活動の内容3（4）、4（5）を取り上げ、授業の中で展開していくこととする。また、ボールを操作することをとおして運動する楽しさや喜びを味わうことができるように、小学校学習指導要領の体育科の内容、A「体づくり運動（1）運動 イ多様な動きを作る運動遊び」とE「ゲーム アボールゲーム イ鬼遊び」と関連させ、児童のボディイメージを広げ、様々な大きさのボールを操作しながら意欲的に運動する態度を育てていく段階であると考えた。</p> <p>指導に当たっては以下4項目を工夫し、児童が安全に意欲的に活動できるように支援していく。</p> <p>一つ目に、ICT機器を活用して技術向上を図る。児童の視点で蹴り方を説明することで、「蹴る」という単語と動作のマッチングをできるようにする。また、児童本人が映っている動画をスロー再生し、ポイントを一緒に確認していく。また、動画をよく見る実態から、動画をとおして共同注意を図り、友だちへの意識を促していきたい。二つ目に、1・2学年で実施していた体育科を学年に分けて実施することで、学年としてのかかわりをより深め、クラスを超えた児童と教師や、児童同士のかかわりを促していく。三つ目に、シュートゲームまで「蹴る」動きを意識しやすいように、準備運動から足を使う動きを取り入れ、音楽を活用しながら楽しく活動できるように工夫する。最後に、安全に活動するために、たくさんのボールが床に散らばっている状況を作ることのないよう、一人一つずつボールを活用する。さらにボールを運ぶ、蹴る、拾う、かごに入れる等の活動の一連の流れを作り、自主的に活動できるようなゲーム構成にする。</p> <p>児童の主體的な活動を引き出すためには、ティーム・ティーチングの連携が重要であると考え。授業のねらいの共通理解や支援方法の検討だけでなく、毎回の授業の子ども達の様子について評価できるような定期的な話し合いを設定していきたい。</p>		
題材の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足でボールを操作することができる。 【技能】 ・ ボールに慣れ親しんで、自分の課題に取り組むことができる。 【態度】 ・ ゴール方向にボールを運ぶことができる。 【思考・判断】 		
指導計画 (9時間扱い) 本時は第6時	第1次 ボールで遊ぼう・・・・・・・・・・1時間 第2次 蹴り遊びをしよう・・・・・・・・・・3時間 第3次 シュートゲームをしよう・・・・・・・・5時間（本時）		

[本時の指導]

1 全体目標

- 軸足をボールの横に置き、ボールを蹴ったり、足で触れたりしてドリブルをしたり、シュートしたりすることができる。 **【技能】**
- ボールに慣れ親しんで、時間内繰り返しボールを運んだり蹴ったり触ったりすることができる。 **【態度】**
- 相手チームのゴール方向にボールを運んだり、シュートしたりすることができる。 **【思考・判断】**

2 児童の実態及び個別目標等

【技能】

- ①空気の入ったビニール袋を空中で何回か足で触ることができる。
- ②2 m程度離れた場所から、1.5m幅的的に蹴ることができる。
- ③片足で立つことができる。
- ④軸足をボールの横に置いてボールを蹴ることができる。
 - 軸足をボールの横に置いて蹴っている。
 - △軸足をボールの手前に置いて蹴っている。
 - 軸足の置き場所にこだわらずに、ボールに触れている。

【態度】 ボールを蹴る楽しさを味わうことができる。

- 時間内で繰り返しボールを運んだり蹴ったりすることができる。
- △教師やともだちの手本を見て、ボールを運んだり蹴ったりすることができる。
- 教師がそばでボールを渡したり、置いたりすることで、ボールを運んだり蹴ったりすることができる。

【思考・判断】 ゴール方向にボールを運ぶことができる。

- ゴールに向かってボールを運ぶことができる。
- △教師やともだちの手本を見て、ゴールに向かってボールを運ぶことができる。
- 教師の方向の指示を受けて、ゴールを見ることができる。

名前 (白帽子)	【技能】				【態度】	【思考・判断】	【個別目標】	【主な指導場面】
	①	②	③	④				
A	35回	5/5	10秒	△	○	○	軸足をボールの横に置いてボールを蹴ることができる。	5 (2) (3) (観察) 6 (動画)
B (T4)	25回	4/5	5秒	△	△	△	3分間自主的にボールを蹴ったり運んだりすることを繰り返すことができる。	5 (2) (観察)
C	20回	5/5	7秒	△	○	△	攻めるべきゴールにボールを蹴って入れることができる。	5 (3) (観察) 6 (動画)
D	39回	4/5	5秒	○	○	△	色を頼りに攻めるべきゴールにボールを蹴ってシュートすることができる。	5 (3) (観察) 6 (動画)
E	17回	2/5	3秒	△	○	○	軸足をボールの横に置いて5本中3本以上ゴールにシュートすることができる。	5 (3) (観察) 6 (動画)
F	20回	3/5	6秒	△	○	△	攻めるべきゴール方向にボールを運び、ゴールに向かってボールを蹴ることができる。	5 (3) (観察) 6 (動画)

名前 (赤帽子)	【技能】				【態度】	【思考・判断】	【個別目標】	【主な指導場面】
	①	②	③	④				
G	13回	4/5	3秒	△	△	□	3分間自主的にボールを蹴ってマーカーから落とすことを繰り返すことができる。	5(2)(観察)
H	8回	3/5	2秒	△	○	□	色を頼りに、攻めるべきゴール方向にボールを運ぶことができる。	5(3)(観察)
I	1回	4/5	平均台を走って渡ることができる。	○	□	□	3分間自主的にボールをゴールラインまで運び、ゴールに向かってボールを蹴ることができる。	5(3)(観察)
J	5回	0/5	片手支持で平均台を渡ることができる。	□	△	□	3分間でそばにいる教師の手本を見て、マーカーの上にあるボールを自主的に2個以上蹴ることができる。	5(2)(観察)
K	10回	2/5	5秒	△	□	□	教師と手をつないで置いてあるボールをゴールに向かって蹴ることができる。	5(3)(観察)
L	0回	0/5	平均台を歩いて渡ることができる	□	□	□	教師と手をつないで3分間でマーカーの上に置いてあるボールを自主的に2個以上蹴ることができる。	5(2)(観察)

3 展開

分	主な学習活動・内容	指導の手立て
(1)	1 始まりの挨拶をする。	・T1は挨拶をする児童を指名し、T2以下は前に出ている児童へ視線を向けるように言葉掛けをしたり、教師も一緒に挨拶したりすることで、授業の始まりに気付くことができるようにする。(全)
(1)	2 本時の活動内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 1はじめのあいさつ 2 どうぶつになって 3 うごいてみよう 4 きゅうけい 5 けってみよう！ 6 どうだったかな？ 7 おわりのあいさつ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを使用して、本時の活動内容を示すことで、学習の見通しをもてるようにする。(全) ・各クラス2列横隊で並ぶことで、ホワイトボードに注目しやすくする。(全)

(4) シュートゲームをする。

【見る】

- ① 「ゴール」
- ② 「ボール」
- ③ 「ゴール」

【評価】

- ・ボールを蹴ったり、触れたりしてボールをマーカーから落とすことができたか。(技能〔観察〕)
- ・時間内で繰り返しボールを蹴ってマーカーからボールを落とすことができたか。(態度〔観察〕)

- ・T 1は児童にビブスを配付し、6人1グループを2つ作れるようにする。(全)
- ・動画をスロー再生し、どのような動きかを一連の動作で見せることで、確認できるようにする。(全)
- ・蹴る技術が安定してきた児童(A・C・D・E・F)には、蹴る前には「ゴール」「ボール」「ゴール」の順で見るポイントも伝え、ボディイメージを広げる工夫をする。(個)
- ・活動時間の見通しがもてるように、音楽を流したり、タイマーを掲示したりする。(全)
- ・T 5は、児童がボールを運ぶ際に分かりやすいようにコート中央にボールを集めておく。(全)
- ・T 2は児童が攻めるべきゴールを意識しやすいようにゴールを4つ設置する。(全)
- ・T 1はコート中央からゴールラインまでボールを運び、ボールを置いてゴールへシュートする一連の動作を見せたり、数字を使って順番にルールを説明したりすることで、児童が活動の見通しをもてるようにする。(全)
- ・3分間できるだけ多くシュートできるように、ゴールラインに置く、ボールを蹴る、蹴ったボールは自分で取りに行く、入ったら写真カードのところに磁石を貼るという一連の流れで活動できるようにする。(全)
- ・一人1つのボールで活動することで、多くのボールが床に転がっている状況がないようにし、安全に活動できるようにする。(全)
- ・中央のかごからボールを一人1つずつ取り、ゴールラインまで手で持って運んだり、ドリブルすることができる児童はドリブルでボールを運んだりする。(個)〈3-(2)〉
- ・L, I, K, JはT 2, T 3, T 6, T 5がゴール方向を指さしたり、ボールを蹴る際にはボールとゴールを見てから蹴ることができるよう、指さしたり、手をつないでゴールまでボールを運んだりするようにする。(個)
- ・グリットは2つ用意し、児童の活動量を確保する。(全)

【評価】


- ・ボールを蹴ったり、触れたりしてボールをゴールラインへ運んだり、ゴールラインからシュートすることができたか。(技能〔観察〕)
- ・時間内で繰り返しボールを蹴ったり、運んだりすることができたか。(態度〔観察〕)
- ・相手チームのゴール方向にボールを運んだり、シュートしたりすることができたか。(思考・判断)


<p>(8)</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T 1はシュートゲームの記録表を使い、どちらがボールを多くシュートできたかを振り返る。多く入ったチームに拍手をしながら称賛するように促す。(全) ・児童の中から、軸足をボールの横に置いていたり、蹴り足を後ろから大きく振りかぶったりして蹴っていた児童を選び、動画で振り返りながらポイントを確認していく。(全) ・T 2以下はT 1へ視線を向けられるように、言葉かけをしたり、軸足や蹴り足に触れることで、児童がポイントを確認できるようにする。(個) ・T 2以下は、それぞれの活動で児童が感じたことを、表情や会話、ジェスチャーなどから見取り、児童の達成感を共有する。(全)
<p>(1)</p>	<p>6 終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T 1は挨拶をする児童を指名し、T 2以下は前に出てくる児童へ視線を向けるように言葉掛けをしたり、教師も一緒に挨拶したりすることで、授業の終わりに気付くことができるようにする。(全)


【板書計画 (1)】

はじめのあいさつ

どうぶつになって


おにごっこ 


けってみよう 


どうだったかな? 


終わりのあいさつ

【板書計画 (2)】

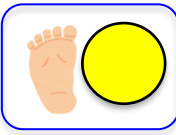

けってみよう 



リフティング 

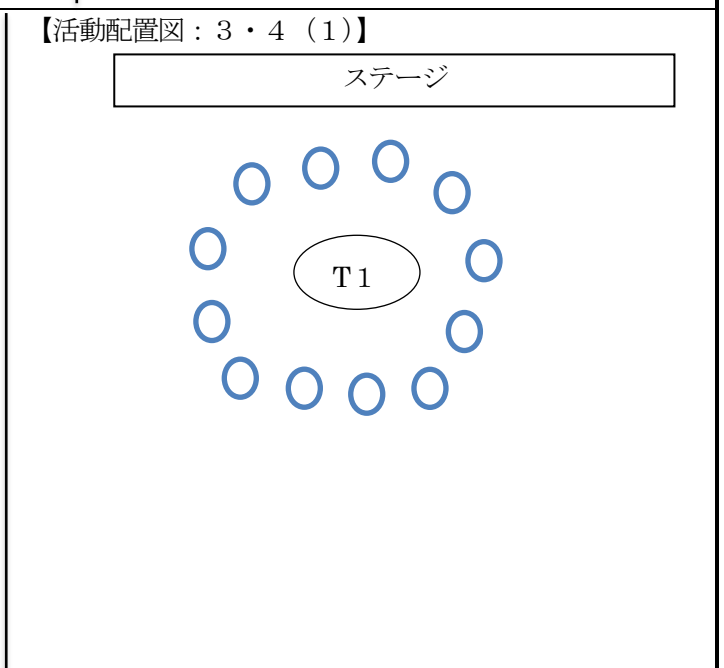
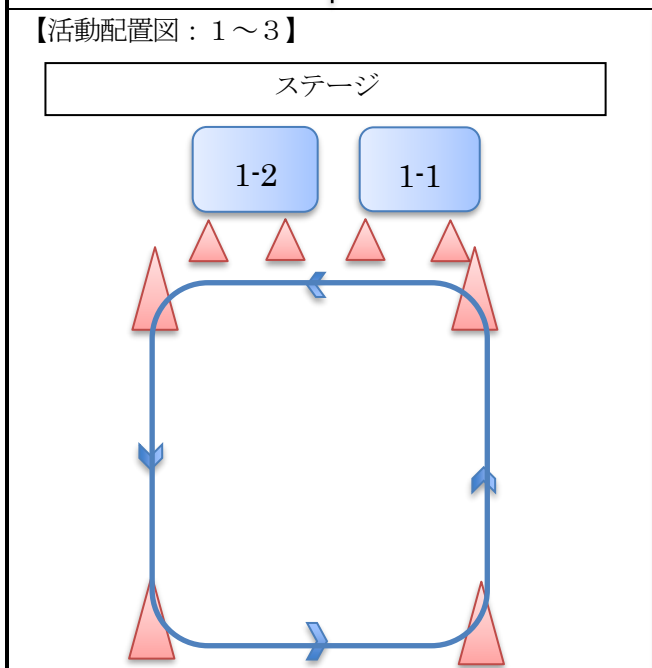
ボールおとし 

シュートゲーム 

【板書計画 (3)】

【ける】  よこ  うしろ→まえ

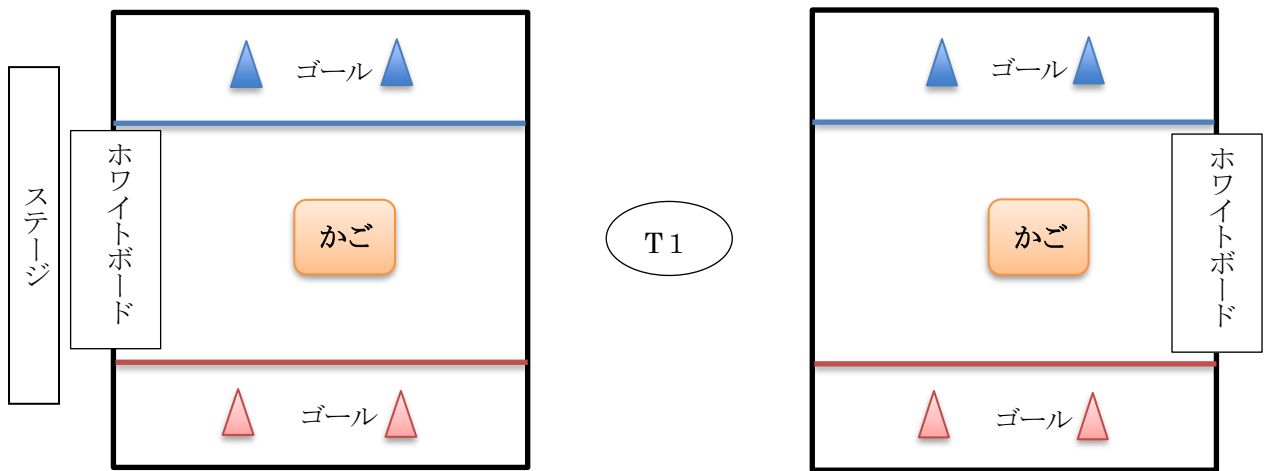
【みる】  ゴール  ボール



【活動配置図：4（3）】



【活動配置図：4（4）】



4 準備物

ホワイトボード（2）、コーン、マーカー、ボール、プロジェクター、机、iPad、iPhone、かご、ゴール Bluetooth 機器